

# 共産党第19回大会が閉幕

## ～2期目の習近平政権発足

中国投資銀行部  
中国調査室

中国共産党第19回全国代表大会(第19回党大会)は10月24日に北京で閉幕した。閉幕式では、新しい中央委員会、中央紀律検査委員会委員が選出されたほか、第18回中央委員会報告に関する決議、第18回中央紀律検査委員会活動報告に関する決議、「中国共産党規約(改正案)」に関する決議が採択された。

### I. 新しい中央委員会員を選出、習近平思想が党規約に

習近平総書記は閉幕式を主催し、代表、特別招聘代表の計2,336人が出席した。総投開票立会人と投開票立会人の監督の下、出席した代表と特別招待の代表が無記名方式で投票を行い、第19回中央委員会の委員204人と候補委員172人を選出し、第19回中央紀律検査委員会の委員133人を選出した。

図表1 中国共産党中央委員名簿

乙曉光	丁来杭	丁学東	丁薛祥	于偉国	于忠福	万立駿	習近平	馬飏(壮族)	馬興瑞
王寧 (武装警察)	王軍	王勇	王晨	王毅	王小洪	王玉普	王正偉(回族)	王東明	王東峰
王爾乘	王志民	王志剛	王滬寧	王国生	王建軍	王建武	王晓東	王晓暉	王家勝
王蒙徽	尤權	車俊	尹力	巴音朝魯 (モンゴル族)	巴特爾 (モンゴル族)	艾力更·依明巴 海(ウイグル族)	石泰峰	布小林(女、 モンゴル族)	盧展工
白春礼 (満族)	吉炳軒	畢井泉	曲青山	朱生嶺	劉奇	劉雷	劉鶴	劉士余	劉万竜
劉奇葆	劉国中	劉国治	劉金国	劉結一	劉振立	劉家義	劉賜貴	劉粵軍	齊扎拉 (チベット族)
安兆慶 (シボ族)	許勤	許又声	許達哲	許其亮	阮成發	孫志剛	孫金竜	孫紹聘	孫春蘭(女)
杜家毫	李屹	李希	李斌 (女、国家機関)	李強	李干傑	李小鵬	李鳳彪	李玉賦	李伝広
李紀恒	李克強	李作成	李尚福	李国英	李橋銘	李曉紅	李鴻忠	李錦斌	楊学軍
楊潔篪	楊振武	楊曉渡	肖捷	肖垂慶	吳社洲	吳英傑	吳政隆	邱学強	何平 (解放軍)
何立峰	応勇	冷溶	汪洋	汪永清	沈金竜	沈晓明	沈躍躍(女)	沈徳詠	懷進鵬
宋丹	宋濤	宋秀岩(女)	張軍 (国家機関)	張又俠	張升民	張慶偉	張慶黎	張紀南	張国清
張春賢	張晓明	張裔炯	陸昊	陳希	陳武(壮族)	陳豪	陳文清	陳吉寧	陳全国
陳求発 (苗族)	陳宝生	陳潤児	陳敏爾	努爾蘭·阿不都 滿金(カザフ族)	苗圩	苗華	苟仲文	範驍駿	林鐸
尚宏	金壮竜	周強	周亜寧	鄭和	鄭衛平	鄭曉松	孟祥鋒	趙楽際	趙克志
趙宗岐	郝鵬	胡和平	胡沢君(女)	胡春華	咸輝 (女、回族)	鐘山	信春鷹(女)	侯建国	蒯勤儉
洛桑江村 (チベット族)	駱惠寧	秦生祥	袁家軍	袁誉柏	袁曙宏	聶辰席	栗戰書	錢小羊	鉄凝(女)
倪岳峰	徐麟	徐楽江	徐安祥	高津	郭声琨	郭樹清	唐仁健	黃明	黃守宏
黃坤明	黃樹賢	曹建明	龔正	盛斌	雪克来提·扎克 爾(ウイグル族)	鄂竟平	鹿心社	譚貽琴 (女、白族)	彭清華
蔣超良	韓正	韓衛国	韓長賦	傅政華	謝伏瞻	樓陽生	蔡奇	蔡名照	雒樹剛
黎火輝	潘立剛	穆虹	魏鳳和						

中央委員は204人のうち約6割が入替わっており、その中で、習近平総書記に近いとされる人材の登用が顕著である。例えば、新たな中央委員のうち、政治局員に就くこととなった蔡奇北京市党委書記(61)は、習近平総書記が福建省、浙江省で勤務していた時期からの同僚であり、昨年10月の北京市長代理就任後、短期間で北京市書記に昇格し、一般黨員から中央委員候補と中央委員を飛ばして「三段跳び」を果たすこととなった。なお、蔡奇氏は8月に「習近平思想」に言及し、習近平総書記の権威確立に向けた先導役とも見なされている。

また習近平総書記が浙江省党委を務めた時期に、同省党委宣伝部長を務めた陳敏爾重慶市党委書記(57)が政治局員に昇格することとなった。当初、陳敏爾氏の政治局常務委員会入りも有力視されたが、見送られる結果となった。ほかにも、黄坤明共産党中央宣伝部常務副部長(60)、何立峰国家発展改革委主任(62)、李強江蘇省委書記(58)、丁薛祥中央弁公庁常務副主任(55)なども、福建省、浙江省、上海市で習近平総書記の下で勤務した経験がある。

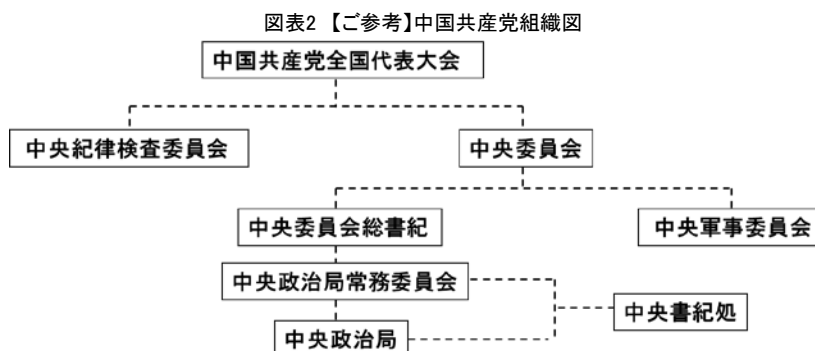
また閉幕式では、「中国共産党規約(改正案)」が審議、可決された。会議は「習近平の新時代の中国の特色ある社会主義思想」をマルクス・レーニン主義、毛沢東思想、鄧小平理論、「三つの代表」重要思想、科学的発展観と共に党の行動指針として共産党規約に盛り込むことで一致した。なお、現在の共産党規約には、毛沢東氏、鄧小平氏、江沢民氏、胡錦濤氏の思想や理念が盛り込まれているが、個人名が使われているのは毛沢東氏と鄧小平氏のみで、「習近平新時代の中国の特色ある社会主義思想」の党規約記入は、習近平総書記が1期目の任期を終える段階で2人の歴史的指導者に並ぶ権威を確立したことを意味するのではないかと見られている。

共産党宣伝部の王曉輝副部長は、「習近平新時代の中国の特色ある社会主義思想」がもたらした変革は主に次の4点にまとめることができるという。①マルクス思想を新たなステップへ導き、マルクス主義原論と中国の実情の結合を実現させる飛躍的な存在である、②中国の特色ある社会主義を新たなステップへ導き、新しい時代における中国の特色ある社会主義の本質、方向性を示した、③国家行政管理を新たなステップへ導き、新しい思想の下で、共産党は中国国民の先頭に立って、様々な歴史的な成果を挙げ、様々な変革を実現した、④共産党党内の管理を新たなステップへ導き、新しい思想の下で、共産党は党内管理の厳格化を徹底するよう方針転換を行った。

なお、王曉輝副部長は、「習近平の新時代の中国の特色ある社会主義思想」は全国民、共産党全体の知恵の結晶であるが、習近平総書記は思想の主要な創設者であり、その確立に重要な貢献をしてきたことから、習近平総書記の名前を付けるようになったと説明した。

## II. 新しい政治局常務委員を選出

中国共産党第19回中央委員会第1次全体会議は25日に北京で開かれた。会議には中央委員204人と候補委員172人が出席し、中央紀律検査委員会委員が列席した。会議では中央政治局委員、中央政治局常務委員会委員、中央委員会総書記が選出された。また会議は、中央政治局常務委員会の指名に基づき、中央書記処委員、中央軍事委員会委員を選出した。その他、第19回中央紀律検査委員会第1次全体会議で選出された書記、副書記、常務委員会委員を承認した。各名簿は以下の通り。



出所: 公開資料より当行中国調査室作成




図表3 新しい人事構成





中央政治局	
中央委員会総書記	習近平
中央政治局常務委員会委員	習近平、李克強、栗戰書、汪洋、王滬寧、趙樂際、韓正
中央政治局委員	丁薛祥、習近平、王晨、王滬寧、劉鶴、許其亮、孫春蘭(女)、李希、李強、李克強、李鴻忠、楊潔篪、楊曉渡、汪洋、張又俠、陳希、陳全国、陳敏爾、趙樂際、胡春華、栗戰書、郭声琨、黄坤明、韓正、蔡奇
中央書記処	
中央書記処書記	王滬寧、丁薛祥、楊曉渡、陳希、郭声琨、黄坤明、尤權
中央軍事委員会	
中央軍事委員会主席	習近平
中央軍事委員会副主席	許其亮、張又俠
中央軍事委員会委員	魏鳳和、李作成、苗華、張昇民
中央規律検査委員会	
中央規律検査委員会書記	趙樂際
中央規律検査委員会副書記	楊曉渡、張昇民、劉金国、楊曉超、李書磊、徐令義、肖培、陳小江
中央規律検査委員会常務委員会委員	王鴻津、白少康、劉金国、李書磊、楊曉超、楊曉渡、肖培、邹加怡(女)、張昇民、張春生、陳小江、陳超英、趙樂際、侯凱、姜信治、駱源、徐令義、凌激、崔鵬

出所:新華社より当行中国調査室作成

常務委員に選出されたメンバーは、序列順に習近平総書記(65)、李克強総理(62)、栗戰書共産党中央弁公庁主任(67)、汪洋副総理(62)、王滬寧共産党中央政策研究室主任(62)、趙樂際共産党中央組織部長(60)、韓正・上海市共産党委員会書記(63)の70人である。習近平総書記、李克強総理以外の5人は新任で、すべて政治局委員からの昇格である。それぞれの経歴は次の通り。

図表4 中国共産党第19期中央政治局常務委員の略歴

	写真	生年	略歴
習近平		1953年	河北省正定県党委員会書記、福建省廈門市党委員会常務委員、福建省福州市党委員会書記、福建省党委員会副書記、浙江省党委員会書記、上海市党委員会書記 中共中央政治局常務委員、中共中央書記処書記、中華人民共和国副主席、中国共産党中央軍事委員会副主席、中華人民共和国中央軍事委員会副主席、中央党校校長13年～、中共中央委員会総書記、中共中央軍事委員会主席、中華人民共和国主席、中華人民共和国中央軍事委員会主席
李克強		1955年	共産主義青年団中央書記処第1書記、河南省党委員会書記、遼寧省党委員会書記13年～、中共中央政治局常務委員、國務院総理、党組書記
栗戰書		1950年	河北省石家荘地委副書記、河北省承德地委副書記、河北省委員会常務委員、陝西省党委副書記、西安市党委書記、黒竜江省党委副書記、貴州省党委書記17年～、中共中央政治局常務委員、中央弁公庁主任、中央国家安全委員会弁公室主任、中央直属機関工作委員会書記

<p>汪洋</p>		<p>1955年</p>	<p>共産主義青年団安徽省団委の副書記、安徽省党委員会副書記、国家発展計画委員会の副主任、國務院副秘書長、重慶市党委員会の書記、広東省党委員会の書記 17年～、中共中央政治局常務委員、國務院副総理、党組メンバー</p>
<p>王滬寧</p>		<p>1955年</p>	<p>復旦大学法学院院長 17年～、中共中央政治局常務委員、中共中央書記処書記、中共中央政策研究室主任、中共中央全面深化改革指導グループ弁公室主任</p>
<p>趙樂際</p>		<p>1957年</p>	<p>青海省商業庁庁長、党委員会書記、青海省財政庁庁長、青海省党委員会書記、陝西省党委員会書記 17年～、中共中央政治局常務委員、中共中央紀律検査委員会書記、中共中央組織部部長</p>
<p>韓正</p>		<p>1954年</p>	<p>共産主義青年団上海市委員会書記、上海市政府副秘書長、上海市党委員会常務委員、副書記、市長 17年～、中共中央政治局常務委員、上海市党委員会書記</p>

出所：新華社より当行中国調査室作成

なお、当初、「ポスト習近平」といわれる 50 代後継候補が常務委員に選出されるかどうかも焦点であったが、有力視されていた元重慶市党委書記の孫正才氏は党大会直前に失脚し、広東省党委書記の胡春華氏(54)、重慶市党委書記の陳敏爾氏(57)も政治局常務委員会入りが実現せず、次期総書記が不透明なままとなった。一部関係者の間では、習近平総書記による長期政権の可能性もあると見られている。

### Ⅲ. 「節目」が多い 2 期目

25 日の政治局常務委員記者会見では、習近平総書記が発言し、任期 2 期目における重要目標、関連の取組み、および意気込みを示した。概要は以下の通り。

10月24日、共産党第19回党大会が閉幕した。165ヶ国の452の主要政党から祝賀の電報・書簡が855件寄せられており、そのうち814件は国家元首や政府首脳、政党や重要組織・機関の指導者からのものであり、私は中国共産党中央委員会を代表し謹んで感謝する。

第19回中央委員会第1次全体会議で、私は引続き中央委員会総書記に選出され、これは私に対する評価であり、更なる鞭撻と激励でもある。私たちは必ず忠実に職責を果たし、勤勉に働き、使命に背かず、必ず責任を果たす。

長期的な努力により、中国の特色ある社会主義が新たな時代に入っており、新たな時代には新たな気持ち、新たな行動プランも必要となってくる。第19回党大会から第20回党大会までの5年間は、第1の百年目標を実現し、第2の百年奮闘目標も始まる、「2つの百年目標」の実現に向けた最も重要な時期であり、その中のいくつかの重要な時間的節目を私たちの取組みの座標としていきたい。

2018年は改革開放40周年を迎える年である。改革開放は現代中国の命運を変えた施策であり、40年間にわたる改革開放により、国民生活はほぼ小康状態(ゆとりのある生活)を実現している。我々は今後、今までの諸改革の経験を生かし、引続き国家行政体制、管理システムの現代化を推進し、各分野の改革を深化させるとともに、対外開放の拡大という基本方針を堅持し、改革と開放の相互促進に取り組む。

2019年は中華人民共和国建国70周年であり、私たちは新しい発展理念を徹底し、中国経済の持続可能な発展を推進し、すべての国民がその恩恵を受けられるように取り組む。私たちは引続き「第13次五ヶ年計画」で定められた任務をしっかり遂行するとともに、将来の発展に対する新たな計画を立て、各分野の全面的発展を推進し、中国のさらなる繁栄と富強を目指す。

2020年は小康社会が全面的に実現する年であり、共に裕福になる道において、国民1人たりとも脱落させない。私たちは全党、全国の力を挙げ、貧困脱却という難関の攻略に取り組む。貧困脱却が私たちと全国民の約束であり必ず実現させる。私たちは、素晴らしい生活に対する国民の期待を自分たちの奮闘目標とし、国民を中心・重点とする発展方針を堅持し、国民生活の保障と改善に取り組む。国民の満足感、幸福感、安全感をさらに向上させ、国民全体の共同富裕に向けて努力する。

2021年は中国共産党成立100周年であり、中国共産党は世界最大の政党であり、中国国民の先頭に立って、より良い生活に向かって諸改革を敢行できることはすでに証明されている。私たちは前向きな気持ちを持ち、自らが国民の公僕、時代の先鋒、民族の脊梁であることを常に銘記しなければならない。また私たちは揺るごとく党内管理の厳格化に取り組む、党の健全を腐食するあらゆる腐敗を排除し、清廉公正な政治体制を築くことに努力し、全党、全社会の力を凝集し、中国の発展と進歩を後押しする。

苦難の中から歩んできた中国共産党と中国国民は平和と発展を誰よりも大切にしている。中国国民は国家の主権、安全、発展上の利益を断固として守ると同時に、世界の人々と共に、人類運命共同体の構築を積極的に推進し、人類の平和と発展という偉大なる目標のために新たに更なる貢献をしていきたい。

歴史は国民が綴っていくものであり、全ての成果も国民に帰すべきであり、国民に深く根を付けば、私たちは尽きることのない力を得ることができ、いかなる困難にも阻まれることなく、勇敢に前へ進むことができる。

#### IV. 結び

「習近平の新時代の中国の特色ある社会主義思想」は歴史を継承すると同時に、時代の流れに順応し前進している。「習近平の新時代の中国の特色ある社会主義思想」は中国共産党の重要な革新理論であり、政治、経済、社会、イデオロギー、環境保護などを網羅する全面的な指導思想と行動指針であり、中国の発展をリードし、中華民族の偉大な復興という目標の実現を後押しする役割が期待されている。

なお、「習近平の新時代の中国の特色ある社会主義思想」は、中国共産党が世界に向けて発信したシグナルでもあり、過去よりも更なる強い自信を国際社会に示している。今後中国は、共産党のリードの下で、国際問題やグローバルガバナンス体制の改革と構築へより積極的に参加していくことを意図しているとも見られる。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては全てお客様御自身でご判断くださいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当店はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

三菱東京UFJ銀行(中国)有限公司 中国投資銀行部 中国調査室  
北京朝陽区東三環北路5号北京發展大厦4階 照会先:石洪 TEL 010-6590-8888ext. 214